

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(41)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(41)—

1. 始めに

前報(40)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回もピアノソナタの曲です。

ドイツグラモフォン 15MG 3065

モーツアルト ピアノソナタ 13 番変ロ長調

ピアノソナタ 14 番ハ短調

ピアノソナタ 17 番ニ長調

クリストフ・エッシェンバッハ (ピアノ)

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

ドイツグラモフォン盤ということで、TELDEC、逆相、第4時定数 High で聴いていきます。

前報(39)および前報(40)と同じく、エッシェンバッハがモーツアルトの後期のピアノソナタを演奏しています。

モーツアルトの後期のピアノソナタは、完成度が高まっており、それらの表情の変化をエッシェンバッハが、軽快に、かつ優雅になどと、クリーンな音で巧みに描き分けています。

3. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレイク、Crystal E の導入の交換などの総合的な効果として、モーツアルトの後期のピアノソナタの表情の豊かさが描き分けられていることが分ります。

以上